

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成30年6月21日(2018.6.21)

【公開番号】特開2016-220860(P2016-220860A)

【公開日】平成28年12月28日(2016.12.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-070

【出願番号】特願2015-109212(P2015-109212)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/107 (2006.01)

A 6 1 B 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/10 H

A 6 1 B 3/10 K

A 6 1 B 3/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月8日(2018.5.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼の角膜に向けて指標を投影するための投影光学系と、

前記投影光学系によって角膜に投影された指標による第1プルキンエ像と第2プルキンエ像とを撮像素子で撮像する撮像光学系と、

装置本体内に設けられた内部固視標を備え、前記被検眼の視線方向を撮像光軸に対して傾斜した方向に誘導可能な固視光学系と、

前記撮像素子によって撮像された前記第2プルキンエ像に基づいて前記被検眼の角膜後面に関する情報を取得する演算手段と、を備え、

前記固視光学系は、前記第1プルキンエ像と前記第2プルキンエ像とを分離し、分離された前記第2プルキンエ像に基づく角膜後面に関する情報を得るために用いられる特徴とする眼科測定装置。

【請求項2】

前記演算手段は、前記固視光学系によって傾斜された前記被検眼の前記第2プルキンエ像、前記角膜の前面形状に関する情報、および、前記固視光学系によって傾斜された前記被検眼の前記撮像光軸に対する傾斜量に関する情報、に少なくとも基づいて、前記角膜後面に関する情報を取得する請求項1記載の眼科測定装置。

【請求項3】

前記固視光学系は、前記内部固視標の呈示位置を切換えることで、被検眼の視線方向を撮像光軸に沿う正面方向へ誘導可能であり、

前記演算手段は、視線方向が正面方向を向いた前記被検眼に関して前記撮像素子で撮像された前記第2プルキンエ像に基づいて前記被検眼の角膜後面に関する情報を取得する請求項1又は2記載の眼科測定装置。

【請求項4】

前記第1プルキンエ像と前記第2プルキンエ像とが分離されるように前記内部固視標の呈示位置を制御する固視制御手段を備えることを特徴とする請求項1から3の何れかに記載の眼科測定装置。

【請求項 5】

前記被検眼の角膜に向けて指標を投影するための投影光学系と、
前記投影光学系によって角膜に投影された指標による第1プルキンエ像と第2プルキンエ像とを撮像素子で撮像する撮像光学系と、
被検眼による前記第1プルキンエ像と前記第2プルキンエ像とを分離するため、前記撮像光学系の撮像光軸に対して前記被検眼の視線方向を傾斜させる視線傾斜手段と、
前記視線傾斜手段によって傾斜された被検眼の前記第2プルキンエ像を前記撮像素子により撮像し、前記撮像素子からの撮像信号に基づいて被検眼の角膜後面に関する情報を得る制御手段と、
を備えることを特徴とする眼科測定装置。